平成 30 年 4 月 30 日

バンコク産業情報センター

鈴木　太郎

進出先としてのフィリピンについて
一般調査報告書

アセアン加盟国であるフィリピンは、セブ島など観光でもよく知られていますが、2016 年に就任したドゥテルテ大統領の歯に衣着せぬ発言等で、最近は注目されることも多くなっています。

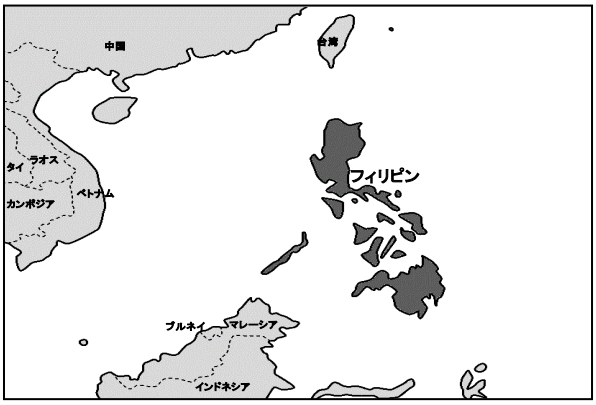
愛知県からフィリピンに進出する県内企業は 47 社、65 拠点（2016 年あいち産業振興機構調べ）と、タイ（295 社）やインドネシア（178 社）、ベトナム（117 社）と比べると少ないですが、高い経済成長や若く豊富な労働力など、企業の進出先として魅力のある国でもあります。

今回、フィリピンに渡航し、現地に進出する愛知県企業等を訪問する機会がありましたので、経済概況や現地での企業活動等について報告したいと思います。

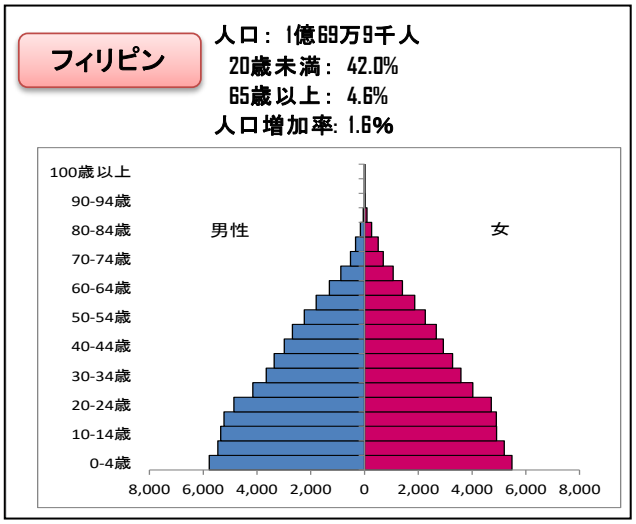
フィリピンは、ベトナムの東、台湾の南に位置し、国土は約 30 万㎢（日本の約 0.8 倍）、大小 7000 以上の島々で構成されています。

人口は、約 1 億人で、20 歳未満の人口比率が 42％（日本は 17.6％）と大変若く、現在も人口増加が続いています。アセアンで唯一のキリスト教国でカトリックが約 8 割を占め、英語が公用語になっていることも、この国の大きな特徴となっています。

（フィリピンの位置図）



（人口構成）



経済面では、6%～7%と高い経済成長率で近年は推移しており、1 人当たり GDP は自動車はじめ耐久消費財が普及し始めると言われている約 3000 米ドルとなっており、2016 年の国内の自動車販売台数は、前年比 25%増の約 40 万台と過去最高となっています。トヨタなど自動車関連の企業も進出しており、日系自動車メーカーのシェアは約 75%を占め、販売台数の増加とともにタイやインドネシアからの輸入車が増加しています。

また、フィリピン経済の特徴に、海外で働く在外フィリピン人（OF:Overseas Filipino）からの送金があり、その数は、一時雇用も含めると人口の約 10%、1000 万人を超えるとも言われています。主に、サウジアラビアなどの中東、シンガポールや香港といったアジアで、家事従事者や製造業労働者などの職業で働いています。また、医者などの高度人材として活躍する在外フィリピン人もおり、2017 年の送金額は約 280 億米ドルと、GDP の約 11%を占めています。

地上職の行先

	国名	2016	% Share
1	サウジアラビア	460,121	27.6
2	アラブ首長国連邦	276,278	16.5
3	シンガポール	171,014	10.2
4	カタール	141,304	8.5
5	クウェート	109,615	6.6
6	香港	116,467	7.0
7	台湾	65,634	3.9
8	マレーシア	33,178	2.0
9	オマーン	27,579	1.7
10	バーレーン	21,429	1.3
	その他	246,892	14.8
	合計	1,669,511	100.0

（出所：フィリピン労働雇用省）

地上職（新規雇用者）の職業

	職業	2016	% Share
1	家事従事者	275,073	47.2
2	製造業労働者	43,538	7.5
3	看護師	19,551	3.4
4	ウェイター等	18,812	3.2
5	清掃員等	17,006	2.9
6	溶接工	7,437	1.3
7	介護士	8,095	1.4
8	土木作業員	7,718	1.3
9	配管工	6,696	1.1
10	建設作業員	5,906	1.0
	その他	172,984	29.7
	合計	582,816	100.0

（出所：同左）

また、英語が公用語であることから、コールセンターやソフトウェア開発などの IT-BPO(Businessb Process Outsourcing)産業が急成長しており、日系の建設コンサルタント会社が CAD データ入力などのアウトソーシングを目的に進出するケースもあります。

フィリピンの国別貿易額では、日本は輸出で 1 位、輸入で第 2 位、また、直接投資認可額は 1 位（2017）となっており、経済的な結びつきは強く、日本からの進出企業の多くがＰＥＺＡ（Philipine Economic Zone Authority、フィリピン経済特区庁）が管理する外資誘致政策を活用しています。

この制度は、ＰＥＺＡゾーンと呼ばれる保税区内に立地する輸出志向型製造業や IT-BPO など外貨獲得型非製造業等に対し優遇措置を行うもので、4 年間の法人税免除や 5 年目以降の軽減税率、生産設備や原材料の関税免除などの優遇措置が認められています。

なお、現在のドゥテルテ政権では、大型インフラ整備計画に必要な財源を確保するため、ＰＥＺＡを含む外資系企業向けの税制優遇措置を抜本的に見直しており、フィリピン進出メリットの低減が懸念されています。

今回、県内の優れたものづくり企業を認定する「愛知ブランド企業」の 1 社で、救命救急用バルーンカテーテルを製造している㈱東海メディカルプロダクツのフィリピンの製造拠点「TOKAI MEDICAL PRODUCTS PHILIPPINES,INC. 」を訪問し、工場長の加藤千英様に、進出の経緯や現地での事業活動等についてお話を伺いました。

Q　フィリピンでの事業概要を教えてください。

フィリピンには、はじめての海外拠点として 2015 年に進出し、医療用のバルーンカテーテルを製造しています。開発拠点・マザー工場の日本に対し、フィリピンはより安価に製造するための拠点として設置しました。材料等は日本から輸入し、完成品はすべて日本に輸出しています。

Q　フィリピンを進出先として選んだ理由はなんでしょうか？

進出先として、フィリピンとベトナムを比較検討しました。治安面ではベトナムに優位性がありましたが、フィリピンは、若くて豊富な労働力に加え、公用語が英語であること、また、ＰＥＺＡによるワンストップサービスや輸出型企業に対する税制優遇制度など積極的な外資誘致政策を行っており、フィリピンへの進出を決めました。

Q　ワーカーの働きはどうですか？

ワーカー15 名、スタッフ 5 名の体制で運営しています。細かな作業が多いですが、ワーカーは物覚えも早く、若いので目も良く、作業手順を明確にすれば指示に従いきちんと仕事を行い品質管理も行っています。フィリピンは、労働争議なども少なく、賃金の上昇も比較的緩やかで、ワーカーは買い手市場で採用しやすい雇用環境となっています。

Q　進出にあたって大変だったことはどんなことですか？

会社設立やＰＥＺＡの手続きに加え、労働や環境関係など非常に手続きが多く、行政の担当者によって判断が異なることもあり、苦労しました。

また、全体の手続きを把握しているコンサルタントもほとんどいないため、漏れがないか不安でしたが、同じような時期に進出した同規模の日系企業の方に聞きくなどして対応しました。

Q　治安や生活面はどうですか？

治安は確かに良くないため、お店の入口に拳銃等を携行したガードマンがおり、手荷物チェックをするなどしていますが、外国人が立ち入らない危険なエリアを避けて

いれば、駐在員の生活エリアに関してはそれほど危なくないと思います。ただし、治安の良いエリアでも、すりひったくりは多いので、注意することが必要です。

日本食レストランもあり、日本食材も手に入ります。ただし、日本とは異なり、安全に余暇を過ごす方法も限られており、駐在員同士のつながりを作って交流するようにしています。

Q　フィリピンに進出する際のリスクや懸念材料はありますか？

フィリピンは、インフラが十分整備されておらず、電力や輸送コストは高くなっています。また、現在、フィリピン政府は、税制改正やＰＥＺＡの優遇税制の見直しを行っており、フィリピンへの進出メリットが少なくなることを懸念しています。

Q　今後の事業の見通しを教えてください。

日本は少子高齢化が進んでおり、新たな市場の開拓とともにコストダウンを図る必要があります。また、日本では労働力も不足するため、フィリピンでの生産規模をさらに拡大し、将来的にはここから第三国への輸出など、当社の中核的な拠点としていきたいと考えています。

(TOKAI MEDICAL PRODUCTS PHILIPPINES 加藤様（右）)

海外へ進出する際には、進出先の正確な情報を入手することが重要です。愛知県では、ジェトロとも連携し、進出先に関するセミナーの開催や企業からの相談等に対応しておりますので、ご活用いただきたいと思います。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。
本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。